

森青天外 もりあおい 俳人。元治元年八月十二日伊豫國生れ、昭和九年四月七日歿（八六四—九三三）。講忠孝、通稱恒太郎。別號二樹、三樹のち、三樹堂、孤鶴、餘白庵。明治九年愛媛縣立中學校比豫學校入學、十四年上京して中村敬宇の同人社本科に入る。歸郷後は村長、縣會議員等のハム職に就き、地方振興に盡力。また眼疾を患ひ失明すると、四十年私と愛媛育唾學校を創設、大正十一年には公民義塾天心園を興して社會教化に従事。一方早くから俳諧に親しみ、明治二十四年蕉影吟社を結成して俳誌『ほせき影』を創刊主宰、正岡子規の投稿を得、句作の添削も受けた。

著書ハ『一粒米』（明治四十一年六月十二日博文館。復刻増補版）『一粒米』付、俳句俳論・天心園』愛媛文學叢書刊行会編、昭和五十一年十月十五日後愛媛・青葉圖書「愛媛文學叢書」）、『貯金道話』（明治四十二年五月十五日丁未出版社）、『愛媛縣 温泉郡余上村治實験談筆記』（作田隆筆記、明治四十四年九月十五日千葉・夷隅郡第一、第二、地主會）等。

